

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム令和元年度第4回幹事会議事要旨

- 1 日時：令和元年 10 月 25 日(金)11 時 00 分～11 時 30 分
- 2 場所：関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 7 階 705 教室
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、岡島（清水副会長代理）、遠藤
陪席者：中島（防災科学技術研究所）、前山（〃）、平岡（セコム）、石濱（筑波大学）
事務担当：大塚（筑波大学）、松原（〃）（敬称略）
- 4 議事
 - (1) 事務運営に関する申合せについて（案）

遠藤委員より、資料 1 に基づき、これまでコンソーシアムの運営に係る経費については筑波大学が拠出し運営しているが、事務局を筑波大学に置いていることから、本コンソーシアムの予算の管理・執行は筑波大学で行うことを明確にした申合せである旨の説明があり、承認された。なお、今後旅費支払いの基準についても加筆を検討する旨説明があった。
 - (2) Joint Seminar 減災との共同シンポジウムについて
遠藤委員より、資料 2 に基づき、令和元年 10 月 25 日開催予定の共同シンポジウムおよびレセプションの次第、事前登録状況について説明があった。
 - (3) 筑波会議 2019 サブセッション開催報告について
遠藤委員より、資料 3 に基づき、令和元年 10 月 3 日に開催された筑波会議 2019 において、セコム、防災科研、NCDR、筑波大学が協働してサブセッションを開催した旨報告があった。
 - (4) 協働大学院に関する協定書（ひな型）の修正について
遠藤委員より、資料 4 に基づき、第 3 回幹事会にて報告された協働大学院に関する協定書（ひな型）について、外為法の件を追記する旨の説明があり、承認された。
 - (5) リスク工学専攻主催「第 184 回リスク工学研究会」開催について
遠藤委員より、資料 5 に基づき、リスク工学専攻が主催する「第 184 回リスク工学研究会」において、コンソーシアム参画機関に所属する博士の学位を持つ方による講演会を開催する旨説明があった。なお、今後もコンソーシアム参画機関に所属する博士の学位を持つ方から講演をいただきたい旨依頼があった。
 - (6) その他
 - ✓ 遠藤委員より、コンソーシアム参画機関所属者向けのリスク・レジリエンス工学学位プログラムリーフレットについて紹介があり、後日各参画機関に 100 部ずつ送付するので広報していただきたい旨依頼があった。
 - ✓ 遠藤委員より林会長に、令和元年度第 1 回運営委員会の議事進行をご担当いただく

ことについて依頼があった。

- ✓ 遠藤委員より、筑波大学リスク工学専攻において客員教員に出席いただきたい会議等について説明があった。
- ✓ 遠藤委員より、卓越大学院プログラムの学内ヒヤリングが実施された旨報告があった。なお、次の意見交換があった。
 - （甘利副会長）卓越大学院プログラムの申請書における英語名称”Human Resource Development Program to Realize Sustainable Resilient Society”について、”realize”という単語は「実現する」よりも「気づく」という意味でよく用いられるため、”embody”, “materialize”, “enhance”等の単語への変更を検討してはどうか。
 - （林会長）”support”ではどうか。
→（遠藤委員）検討する。

以 上